

Contents

Message	1
Business Angle	2~3
Activities	4

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F
TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.com/>

Message

社会的認知と会員拡大を目指し 2008年に社団法人化を目指す

会員の皆様には日頃より協会活動にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私が理事長を拝命してから早くも1年が経ち、この間、多くの皆様に助けていただきました。紙面をお借りして感謝申し上げます。この1年は、既定の方針をいかに迅速に、確実に実行するかに邁進して参りましたが、新年度からは私の抱負を少しでも現実のものにしていきたいと考えています。

◆編集者教育に力を入れる

その1つは、編集プロダクションで働く若手編集者の教育にもっと力を入れていくことです。出版業界は長い間、「本が売れない」と言われ続けてきました。その原因については多くの専門家が分析し、さまざまな理由を挙げていますが、私は編集者の力不足もあるのではないかと考えています。企画力、編集制作の実務力、この2つは編集プロダクションで働く者にとって欠かせない能力です。昨今、教育改革が叫ばれていますが、これは編集の世界でも同じで、「協会の会員社は力がある」「しっかりしている」という評価を得るためにも、教育は欠かせません。

しかし、いくら編集者教育の重要性を認識していても、個々の会社では日々の仕事に追われ、実際にはきちんとした教育を実施することが難しいことも事実です。だからこそ、協会が果たすべき役割もあるのでは

ないかと思っています。協会ではこれまでも、年間を通して編集実務を体系的に学ぶ「編集技術講座」を開講したり、出版事情をさまざまな角度から取り上げる「拡大編集セミナー」を開催するなど、若手・中堅からベテラン社員までの能力アップに注力してきましたが、こうした教育の場をさらに充実させ、真に役立つ協会にしていきたいと考えています。

◆社団法人化を推進する

もう1つは、社団法人化に向けた本格的な準備です。当協会は2008年に発足以来25周年を迎えますが、これまではずっと任意団体として活動してきました。もちろん、この間に何度か法人化に向けた取り組みも行われましたが、いくつもの壁があり、なかなか実現できませんでした。しかし、公益法人制度が2006年に改正され、2008年秋に施行される予定となりました。これを機に、当協会も社団法人として衣替えし、社会的な認知と信用を得ることで、さらに活動の範囲を広げていきたいと思っています。そのために協会では法人化準備委員会を設け、現在、定款の見直しなども含めて検討しています。建設的で前向きな意見交換が行われることを期待しています。

そして、協会のPRにも、もっと力を入れていきたいと考えています。最近、人にとって感じるのは、協会の認知度が意外に低いということ



日本編集制作会社協会理事長 細江 弘司

です。このためにはホームページを充実させたり、セミナーなどの告知を会員外にも送るなど、広報活動を積極的に行っていく必要があります。それがひいては会員の拡大にも繋がるものと思います。

法人化が実現すれば、社会的に認知されることにより新しい会員も増えることでしょう。ただ、矛盾した言い方になりますが、単に数が増えれば良いということでもないと思っています。当協会が、社会のなかで十分な評価を得ていくためには、それなりの実績を持った会社を積極的に勧誘していく必要があります。そのためには、セミナーなどに参加された会社を訪問し、話をする必要でしょう。時間の許す限り、チャンスがあれば、さまざまな会社を訪れてみたいと思っています。「こういう会社がある」という情報だけでも結構ですので、お知らせをいただけたら幸いです。

会員の皆様になお一層のご協力をお願いして、新年度の挨拶とさせていただきます。

◆「編集技術講座」の受講申込み受付中 第2期はより実践的な講座内容に

昨年4月より開講した「編集技術講座」(基礎編)が、毎回80名近くの受講者を集めて大変好評に推移し、3月16日に開催された第10回講座「差別用語の基礎」をもって全日程を終了しました。この研修セミナーは編集プロダクションで働く若手・中堅社員を対象に、年10回の体系的な講座を開き、編集制作の知識や技術を習得してもらうために開催しているもので、このほど全カリキュラムを受講した人に協会より修了証を交付し、編集制作に関する一定の基礎知識が身についたことを認定しました。

教育委員会では、第1期「編集技術講座」の受講者に対するアンケート調査(4ページ参照)などをふまえ、引き続き第2期「編集技術講座」(実践編)を右記の通り開催します。2007年度は、前年度の基礎的な内容を中心とした講義内容から、より編集制作の現場に則した実践的な内容へとステップアップします。

「編集技術講座」は会員社以外でも受講できます。お申し込みは別紙申込書(チラシ)に必要事項をご記入の上、協会事務局にFAXをお送りください。

■第1期「編集技術講座 2006」のテーマと講師

- ◆第1回('06年4月) 「今日の出版界と編集者の役割」—— 鷲尾賢也氏(講談社顧問)
- ◆第2回('06年5月) 「売れる書籍の企画作り」—— 大石陽次氏(NHK出版図書出版部)
- ◆第3回('06年6月) 「読者を引きつける雑誌の企画作り」—— 黒坂 潔氏(主婦と生活社)
- ◆第4回('06年7月) 「取材のコツと執筆のポイント」—— 立尾良二氏(東京新聞外報部)
- ◆第5回('06年9月) 「編集における校閲校正の要点」—— 笹川 隆氏(元講談社生活文化局長)
- ◆第6回('06年10月) 「アートディレクションの仕方」—— 品川 亮氏(スタジオ・ボイス編集長)
- ◆第7回('06年11月) 「エネルギーのある本作り」—— 高橋朋宏氏(サンマーク出版第一編集部編集長)
- ◆第8回('07年1月) 「編集者として知っておきたいDTPの基礎と最新動向」—— 澤野美智子氏(大日本印刷市谷事業部ソリューション推進部)
- ◆第9回('07年2月) 「最新の印刷技術と紙・製本の知識」—— 武野一俊氏(凸版印刷企画販促本部TANC部部长) 他3名
- ◆第10回('07年3月) 「差別用語の知識」—— 田近正樹氏(小学館総務局法務考査室副室長)



第2期「編集技術講座 2007」(実践編)の概要

◆開講日と講義の内容

- | | | |
|---------------|-------------------------|---|
| 第1回 4月20日(金) | 講師: 鷲尾賢也氏(講談社顧問) | 「良き編集者とは。そのために何をすべきか」「企画を立てる」、「原稿を依頼する」 |
| 第2回 5月25日(金) | | |
| 第3回 6月22日(金) | 講師: 小川美奈子氏(小学館家庭編集部編集長) | 「原稿整理をする」、「判型と組みを決める」「書籍の構成を決める」 |
| 第4回 7月20日(金) | | |
| 第5回 9月14日(金) | 校正をする | 以下講師未定 |
| 第6回 10月26日(金) | 取材と原稿の書き方 | |
| 第7回 11月16日(金) | デザイン・レイアウトの基礎(雑誌の場合) | |
| 第8回 1月25日(金) | 紙の知識 | |
| 第9回 2月22日(金) | 印刷の知識と最新技術、製本の種類 | |
| 第10回 3月14日(金) | 出版と法律 | |

◆会場: 日本教育会館(東京・一ツ橋)

◆時間: 午後6時30分より約2時間

◆受講費: 年間1人20,000円(非会員は30,000円)
スポット受講は1回3,000円(非会員も同一)

*講義内容などは都合により変更となる場合があります。

前期の編集技術講座で全カリキュラムを受講できなかった方は、新年度の講座で同様の講義を受講すれば、第2期講座の終了時に修了証を交付いたします。



鷲尾賢也氏

黒坂 潔氏

Admission

新入会員社紹介

「正」は正会員、「賛」は賛助会員、「準」は準会員

正 株式会社 トライアングル

住所 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-18-13 日祥ビル3階
TEL. (03) 5389-0354 FAX. (03) 5389-0895
URL <http://www.triangle1999.co.jp/>

代表者 代表取締役社長 西村典博

設立 1999年4月 社員数 11名

取引先 国内の主要大手出版社、広告代理店、大手印刷会社等

特徴 ①若さと人数を活かし、企画立案から入稿までスピーディーに行い、ページ単位の制作から雑誌の丸請けまで対応、②個々の企画力、創造力、文章力などをフルに発揮し、ニーズに応える“商品”を制作、③情報収集、入念な調査、人脈等をもとに、斬新な企画を打ち出し、急な立ち上げなどにも俊敏に対応

正 関西シーエス

住所 〒603-8213 京都市北区紫野下石龍町16-7
TEL. (075) 495-4125 FAX. (075) 495-4124
URL <http://business.rakuten.co.jp/kansai-cs/>

代表者 代表 高木伸浩

設立 1998年 社員数 3名

事業内容 単行本新書の企画・編集、インターネットコンテンツの執筆、サイト運営、印刷、デザイン、DTP

取引先 光文社、広告社、ヒューマンバリュー

特徴 関西の編集プロダクションという地域性を活かし、関西のお客様にも東京のお客様にもひいきにいただいています。

第1期「編集技術講座」(2006年度)を受講して

朝倉花子さん

株式会社風讃社

日々、仕事と育児に忙殺されている私にとって、“自分の夢”を改めて考えることなどありませんでした。もちろん、編集という仕事をしているのだから、編集者としてベストセラーを出したい、おもしろい企画をやりたいという思いはあります。ただ、それが本当に自分の夢かというとはっきりしませんでした。今回、出版業界の第一線で活躍している方々に、編集の基礎から売れる本作り、印刷の技術と、さまざまな視点から編集者のありかたをお教えいただき、仕事や人生を改めて見つめ直すことになりました。

特に第7回の講義、サンマーク出版の高橋朋宏さんのお話

は印象的でした。ベストセラー「病気になる生き方」が生まれるプロセスは、とても興味深かったです。ベストセラーなんて私には無縁のことだと思っていましたが、高橋さんのお話を伺い、間違いだと気づきました。編集作業はもちろんのこと、広告戦略まで気を抜かない姿に、編集者の本来あるべき姿を見る思いでした。講義の最後、高橋さんが「自分の夢を書き出すと、必ず実現する」と勧められ、自分の夢を書き出しました。「10年後には、ベストセラーを出す」…必ず実現してみせます。



高橋さんが「自分の夢を書き出すと、必ず実現する」と勧められ、自分の夢を書き出しました。「10年後には、ベストセラーを出す」…必ず実現してみせます。

石山亜希さん

株式会社オフィス・サンタ

編集者は忙しい、というのは社会一般のイメージであると思うし、実際、どうしても時間に追われてしまうことがあります。そして、「忙しいから」を言い訳に、仕事の場面ではもちろん、日常生活の中での多くの「些細なこと」をあまり振り返らず、大事とせずに過ごしてきました。そんな私自身を見つめ直す機会をいただけたことが、私にとって本講座に参加した一番の意義だったように思います。今日は昨日の続き、というように流れていく毎日のなか、月に一度、少し立ち止まって自分自身や職場についてあれこれと考えをめぐらす時間を得られたことは、それだけでプ

ラスでした。

毎月、さまざまな編集分野で活躍している方々にご教示いただきましたが、当然のことながら、携わる分野や媒体の性質によって手法、観点がそれぞれ違うものだとことを実感し、また面白くも感じました。私が担当するのは性質が異なる媒体を例とした講義内容であっても、自社とは違う世界が垣間見られる貴重なチャンスであったので、たいへん興味深く思いました。

今後、良い意味で「立ち止まってみる」時間を持つことを忘れずにいたいと思います。



中川克也さん

株式会社カルチャー・プロ

編集という仕事に就いて数年、「習うより慣れよ」という言葉通り、周囲の先輩たちを手本に見様見真似でなんとかやってきました。そういった日々の積み重ねから学ぶことは多々ありますが、「もっと色々な方のお話を聞いて学びたい」とも感じていました。そんな時、編集技術講座の開講を知りました。

実際に編集技術講座を受講してみて、期待以上にたくさんの方の指針をいただいたと思います。中でも、何人かの講師の方が異口同音におっしゃっていた「編集者として重要なことは、良い人脈を作ることだ」という言葉が特に強く心

に残っています。

自分の知識や興味を広げてくれる人と出会うことや、自分の能力以上のことに挑戦する時に、助けてくれる人を見つけることなど、「人と人とのつながり」の重要性をあらためて教えていただきました。

何より感じたのは、この編集技術講座自体が、人と人との出会いの場であったということです。貴重な時間を作っていただいたことに感謝します。



宮下れい花さん

株式会社アルク出版企画

編集制作の仕事をしていて私がいつも悩むことは、執筆者やデザイナーの方の仕事が順調に進んできているにもかかわらず、自分の進行が当初の予定よりも遅れがちになってしまうことでした。編集経験が浅い私には、なぜ遅れてしまうのかが分かりませんでした。第3回目の講師を務められた黒坂潔氏の「編集者に専門知識はいらない。知識を持つ人間を動かさなさい」というお話を聞き、自分の進行が遅れる原因の一端に気づきました。それは人を上手に動かせていなかったということです。

今までの自分の仕事を振り返ると、企画やデザイン、レイ

アウトでも細かいことまで、何でも自分ひとりで考え悩んでいました。ところが、自分では分からないことがたくさんあって、なかなか解決できず、時間だけが過ぎていたのです。さらに自分ひとりで考えた案は知恵が足りず、逆に進行を妨げることもありました。本来は専門家やデザイナー、先輩の力を借りる、つまり人の知識や能力を借り、それを生かすということを考えるべきだったのだと思います。自分で解決できることと、できないことが何かを早く知り対処すること、黒坂氏の言葉にはそんなメッセージも含まれているように思いました。



一般書・企業出版部会

1
18

一般書・企業出版の合同部会が、1月18日(木)18時30分から東京・神楽坂の「我善坊」で開催され、18名が参加しました。当日は、特別ゲストとして、本を出したい人と出版社とを結ぶNPO法人「企画のたまご屋さん」の吉田浩理事長を招き、組織的な出版プロデューサー集団としての具体的な活動内容について話していただきました。

新年最初の協会行事ということもあり、出席した会員社は新年会を兼ね、終始和やかな雰囲気での交流が行われました。



吉田浩氏(写真左)の話を熱心に聞く参加者たち

教材・デジタル部会

2
15

教材・デジタル部会が2月15日(木)18時30分から東京・神田の「大連飯店」で行われ、20名が出席しました。当日は中国・大連のDTP会社、大連英浩信息技术有限公司の尾頭豊社長と、同社ソリューション営業部の趙 岩さんをゲストに招き、中国におけるDTP制作の現状について話を聞きました。

尾頭社長は、日中のDTP制作連携をサポートするエコインテック株の社長も務め、今年1月には大連市人民政府と

の産学協同プロジェクトで、DTPに関わる人材育成と即戦力化を目的とする事業を展開するなど、中国のDTP制作に深く関わっており、参加者は中国DTPの現状について知識を深めることができました。



プロジェクターを使って中国のDTP事情が説明された

編集技術講座

1
19

2
16

3
16

2006年4月から実施してきた第1回「編集技術講座」(基礎編)がいよいよ終盤に入り、1月19日(金)には第8回講座「編集者として知っておきたいDTPの基礎と最新動向」を大日本印刷の澤野美智子さんが講義。また、2月16日に開催された第9回講座「最新の印刷技術と紙・製本の知識」では、凸版印刷企画販促本部TANC部の武野一俊部長をはじめ、販売促進部の国井哲也氏、TANC部の中森淳課長、そしてマーケティング企



第8回講座の講師を務めた大日本印刷の澤野美智子氏

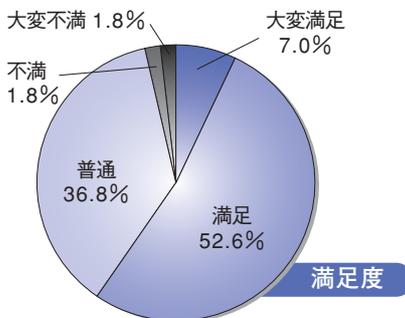
画部の正木昇部長がそれぞれの担当分野を講義しました。さらに3月16日に開催された第10回講座では、小学館総務局法務考

査室の田近正樹副室長が「差別用語の知識」について講義。その後、懇親会を兼ねた修了式を行い、全カリキュラムの出席者に修了証を交付しました。

なお、協会では先に編集技術講座の出

席者に対してアンケート調査を実施したところ、以下のような結果となりました。2007年度の編集技術講座は、当アンケート結果を参考に、より実践的な講座へと生まれ変わります(3ページ参照)。

編集技術講座のアンケート結果



開催要項に関する希望

開催して欲しい曜日 金曜日(59.3%)
開催時刻 夕方(84.7%)
講義時間 2時間程度(76.3%)
開催回数 年8回(25.4%)、年10回(23.7%)

今後の主な行事予定

(日程・内容は変更となることがあります)

◆3月22日(木) 春の例会

「小さな会社の社長が知っておきたい経理の基礎知識」(仮題)について税理士の今村 正氏が講演

◆4月18日(水) 春季ゴルフコンペ

東京都多摩市の桜ヶ丘カントリークラブで4組16名によるコンペを予定

◆5月18日(金) 通常総会

第25期通常総会を日本出版クラブ会館で午後5時より開催。その後、同会場での親睦懇親会を予定

◆7月5日(木)～8日(日)

編集制作プロダクションフェア

東京ビッグサイトで開催される東京国際ブックフェアで「編集制作プロダクションフェア」を開催。協会ブースでは会員社が編集制作した最新の代表作「我が社の一冊」を展示し、第2回日本編集制作大賞の審査会を実施

◆7月27日(金)～28日(土) 経営合宿

毎年恒例の研修セミナーのほか、翌日はオプションでゴルフコンペを予定

受講者の内訳

性別 男性：27.3% 女性：72.7%
年齢 25歳以下：25.9%、26～30歳：43.1%
31～35歳：13.8%、36歳以上：17.2%
経験 3年未満：46.4%、3～5年：23.2%
6～9年：8.9%、10年以上：21.4%
職種 編集者：81.7%、デザイナー：5.0%
ライター：3.3%、その他：10.0%

興味のあるテーマ (重複回答)

1位	取材・執筆のポイント	(42.3%)
2位	書籍の企画・編集	(39.0%)
3位	デザインの基礎知識	(37.3%)
3位	紙の選び方	(37.3%)
5位	雑誌の企画・編集	(35.6%)
5位	出版に関する法律	(35.6%)